



アニマル・ドネーション 第Ⅴ期 事業報告書

2014年6月1日～2015年4月19日（一般社団法人最終年度）

2015年4月20日～2015年5月31日（公益社団法人開始年度）

当法人は「人」と「動物」の真の意味での「共生」を目指します。

人と動物が良きパートナーとして共に幸せに暮らせる社会を上げるために、非営利の動物関連法人に対して、寄付および情報共有などの支援を行っていきます。

また、関連団体・専門家・行政機関・企業等と広く連携しながら、日本の動物福祉を世界トップレベルまで引き上げることを目指してあらゆる活動をしていきます。

1. 寄付支援事業

【目的と意義】

2011年9月にカットオーバーされた「アニマル・ドネーション」を通じて、支援先団体と寄付者を結び付ける事業である。支援先団体としては、遺棄動物の保護団体や補助犬育成団体や動物愛護の精神を啓発する団体等を対象としている。これらの対象法人の活動資金源の過半は「寄付」である。寄付による支援活動を活発化させることにより、動物福祉の底上げを図ることを目的としている。また、誰しものが気軽に寄付による支援が行えるオンラインでの寄付システムの提供や、企業等と協力した寄付の仕組みを提供することで、日本には根付いていないと言われている寄付文化の構築に貢献することも目的としている。

1) 個人からの寄付支援事業

クレジットカードによるオンライン寄付システムを提供し、個人からの寄付を集め、支援先団体へ届ける事業。また、寄付金を募りやすい環境を作るために、支援先団体向けの活動支援や情報共有、コンサルティング、勉強会運営、印刷物発行などを行う。寄付者に対しては、支援先団体の活動状況や、寄付金の使途、課題に対する情報などを、オンラインサイト内の記事やSNSなどを利用して提供する。

個人からの第5期寄付金額は、194万円、延べ588人であった。累計では、約600万円、延べ約1,460人となり、支援先団体数は2015年5月時点で15団体となっている。

2) 企業団体からの寄付支援事業

企業の社会貢献として当法人と協働した寄付企画を立案し実行する事業。企業の扱う商品の一部が寄付となる商品開発や、企業と協働した寄付キャンペーンの企画立案を行う。寄付文化の定着が遅れている日本においても、

近年は社会への貢献のあり方が多様化し、寄付を行いたいという企業は多くある。その際に、企業が寄付活動に取り組みやすい環境を作るために、企画立案やコンサルティングを行う。

企業団体からの第5期寄付金額は、1,203万円、延べ167団体であった。累計では、約3,350万円、延べ約275団体とった。

今期、企業団体と協働した寄付企画は以下となっている。

■セーブペットプロジェクト

メリアル・ジャパン株式会社と日本全薬工業株式会社から拠出される寄付金を保護団体へ医療費として寄付する企画。

■株式会社 ONE BRAND との業務提携

社会貢献プロジェクト「ONE LOVE プロジェクト」からの寄付をアニドネ経由で各支援団体へ届ける。

■「+イイコト」

紹介している商品・サービスを購入すると、売上の一部がアニドネ経由で各支援団体へ寄付される。現在は10社が参画。

■ECサイト「INUTO」 全商品5%が寄付

株式会社広報戦略室が運営する犬と人のグッズを販売するECサイト「INUTO」で扱う全商品で売上の5%が寄付とる。

■グリーンドッグ 「スマイルツリークリスマス」

株式会社カラーズとのコラボ。ペット用品販売店舗「グリーンドッグ」webサイト上でペットの写真を投稿すると、企業から100円が寄付される企画。期間限定約1カ月間で実施。他、商品の一部を寄付する企画も実施。

■サイバーエージェント「パシャっと LOVE DONATION」

株式会社サイバーエージェントの写真投稿アプリ「パシャっと my ペット」とコラボ。写真を投稿すると1枚につき1円が企業から寄付される。

■「アニドネ柄自動販売機」の設置

NPO 法人寄付型自動販売機協会と提携し、自販機売上の一部がアニドネ経由で各支援団体へ寄付される。現在6台を設置。

3) 資金調達の支援事業

ジャパングィビングやその他のファンドレイジング事業者と業務提携をし、クラウドファンディング事業（アニドネブリッジ）を2015年3月から開始している。当法人が推奨する動物福祉に関連したプロジェクトを紹介し、そのプロジェクトの達成による寄付資金の調達を側面支援する事業である。

第5期は、2件のプロジェクトを支援し、それぞれ目標調達額を達成した。

2. 管理事業

【目的と意義】

当法人のミッションや目指す社会に対して、理解と関心のある方の増加は、当法人の活動展開の上できわめて重要であり、活動の源となる。よって、当法人への会員になることで会費を提供いただく会員制度やボランティアという労力で活動を支える会員制度を設立し、活動規模を拡げる目的である。

1) 賛助会員制度の導入

一口3千円からの個人賛助会員と一口3万円法人賛助会員を設けるため、会費規定を定めた。

今後は、個人・法人共に、当法人のサイト内に名前の記載を行い、入会した賛助会員に向けては、年に一度の活動報告、毎月のメールマガジンの配布等を行い、理解と関心を深めていただく施策を実施する予定。

2) スタッフの拡充

WEBシステム構築、リサーチ、経理といった専門領域に長けたボランティアスタッフを拡充し、組織運営の基盤強化を進めていった。

3) 外部アドバイザリーボードの設置

法人運営の拡大や透明性を高めるために、動物学、経営学の有識者で構成する「審議委員会」を設置した。年2回審議会を開催して、支援先団体の選定に関する審議や、当法人の運営についてアドバイスをもらう。現在の審議委員会は、外部有識者4名、当法人の代表理事1名の合計5名で構成する。

4) 公益社団法人の認定

2015年4月20日に内閣府から公益社団法人の認定を受ける。

動物福祉団体への助成事業の公益性が認められたこと、寄付者に税額控除のメリットを提供できることを活かして、いっそうの活動認知や支援者拡大を目指していく。



animal donation
キモチをカタチに。